

連合北海道女性委員会 第34回定期総会

～河原崎委員長はじめ新役員決まる～

女性委員会は、10月7日(土)、「第34回女性委員会定期総会」を開催し、代議員・傍聴者を含め10産別3地区より32人が出席しました。

大会議長には、大沼代議員(北教組)が選出され、議事が進行しました。最初に、金子女性委員会委員長から「運動目標〈スローガン〉は「労働組合における男女平等参画」と、「職場に・社会におけるジェンダー平等の推進」。目標の達成



議長の大沼代議員

のために、各産別の立場で活動してほしい。男性がほとんどの意思決定の場に女性が増えると、課題である賃金・雇用形態・物価高にも女性の視点が加わる。そのことは、女性だけにとどまらず多様な人材が働きやすい社会に繋がる。周りを見渡すとまだまだその実現には、遠い現状だが、これからも活動を続けなければならない」と挨拶がありました。



金子ユリ前委員長

続いて、連合北海道を代表して、和田副事務局長の挨拶がありました。また、今回の総会には来賓として民主女性議員等ネットワーク会議のみなさんが参加してくださり、代表して、徳永エリ参議院議員、畠山みのり道議会議員から挨拶をいただきました。



大村代議員(自治労)

議事では、事務局から第1号議案 2023年度活動に関する経過及び総括、第2号議案 2024年度活動方針の提案があり、満場一致で可決されました。

産別報告では、2つの産別から報告があり、まず、自治労北海道本部の大村代議員から、2023年度に取り組んできた女性部活動の紹介がありました。毎年12月から4月を「女性の働く権利確立運動強化月間」と設定し、



民主女性議員等ネットワーク会議のみなさん

組合員を対象とした「職場改善実態調査」に取り組み、調査結果から課題の分析、議論を行い、権利の拡充や職場環境の改善にむけた取り組みへつないでいること、さらなる取り組み強化にむけ、同本部女性部で作成した調査結果を分析した学習資料「分析のススメ」の活用を呼びかけ、女性部のみならず、基本組織とも共有するよう呼びかけていること、ハラスメントでは3割以上の仲間が何らかのハラスメントを感じていることから女性セミナーを行い、相談しやすい環境づくりを組合として進めていっていること、などが報告されました。1年の総括として、ZOOMやラインのグループチャットなども使用し、育児や介護、仕事や家庭との両立など様々な背景を持つ仲間たちが参加しやすい方法で繋がりが続けられるよう活動していく、との報告がありました。



西丸代議員 (十勝地協)

次に連合十勝地域協議会青年・女性委員会の西丸代議員（自治労・全道庁労連）から、春闘で集会を開催したことで「組合、連合、春闘についてわからないことが知れて良かった」との声があり、7月には平和をテーマに「2023 夏期交流集会」を、9月には分散会やミニバレーで交流したこと、それらの活動から①運動の形は様々である②産別は異なっても労働者として同じ悩みを抱えている、ということが明確になり、集会での学びや気づきをどのように産別運動の強化につなげるかという課題がわかった。今後、連合で集まる意義を連合ニュース等で発信しながら、気づける場を継続して作り、悩みを共有し、それを政治の場等へ知らせたいと思うよう連帯して進んでいきたい、と報告がありました。

最後に、新役員体制についても承認され、退任する役員を代表して金子ヨリさんが、新任の役員を代表して、河原崎新委員長が挨拶をしました。河原崎委員長からは、「多様性という言葉の陰に、構造的な差別が隠されているのではないかと。常にアンコンシャスバイアスに敏感になって活動していきたい」との話がありました。

連合北海道女性委員会は、今後も性別・年齢・国籍・障がいの有無・就労形態などにかかわらず、誰もが多様性を認め、互いに支え合うことのできる職場・社会の実現をめざします。その実現に向けて、男女平等参画をはじめとして、「真の多様性」に向けた取り組みを地域や産別と連携し進めていきます。



河原崎育子新委員長

2024 連合北海道女性委員会構成

委員長	河原崎 育子	自治労	新任	幹事	対馬 小百合	電力総連	新任
副委員長	新名 玲子	JAM 北海道	新任	幹事	一木 彩乃	JP 労組	新任
事務局長	田中 紀恵	北教組	再任	幹事	菅原 まどか	全労金	新任
事務局次長	横内 智子	国公連合	再任	幹事	大竹 美佳	運輸労連	新任
幹事	鈴木 素能子	北教組	新任	幹事	加藤 美穂	運輸労連	再任
幹事	福田 麻依子	U A ゼンセン	再任	幹事	調整中	自治労	新任
幹事	中田 舞	情報労連	新任				

よろしくお願いします！！

